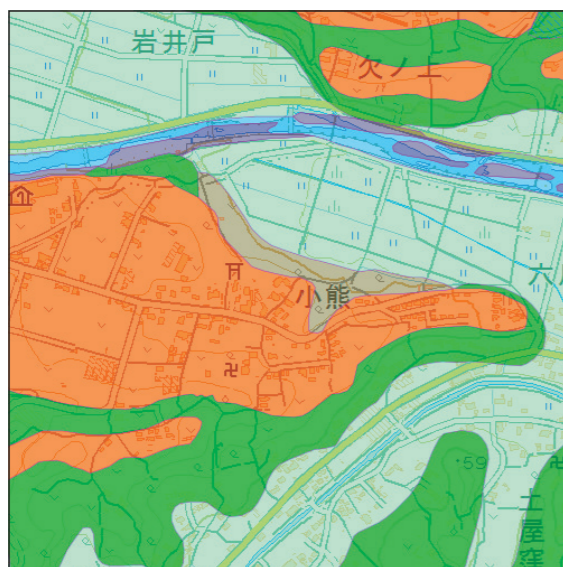
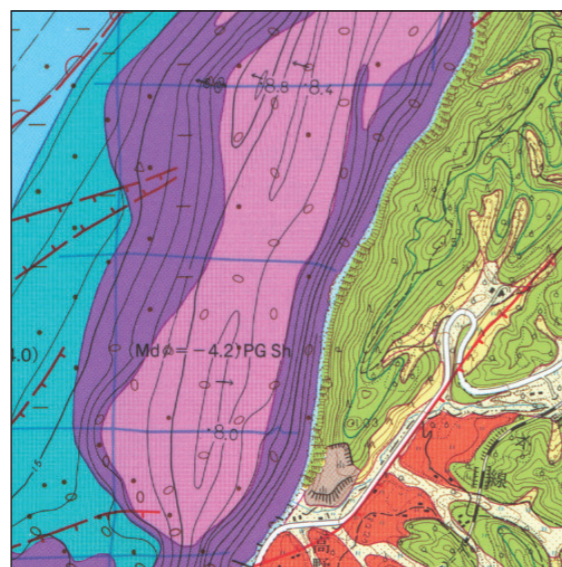


■ 問 07 ▶

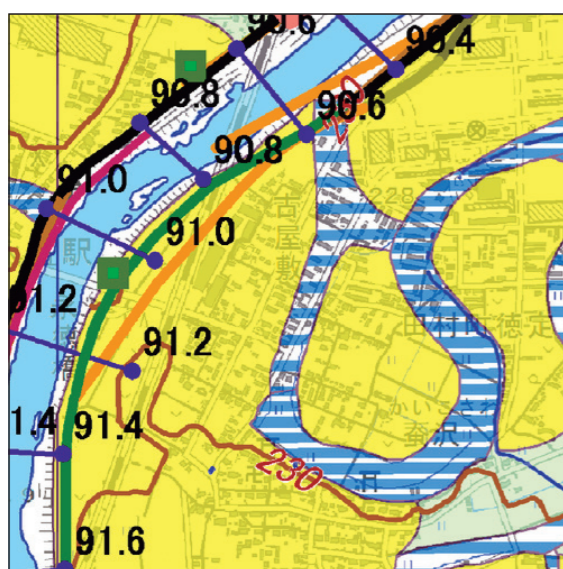
国土地理院ではさまざまな主題の地図を作成している。次の①～④の主題図のうち、地図と名称の組み合わせとして誤りがあるものを1つ選べ。（第27回/問13）



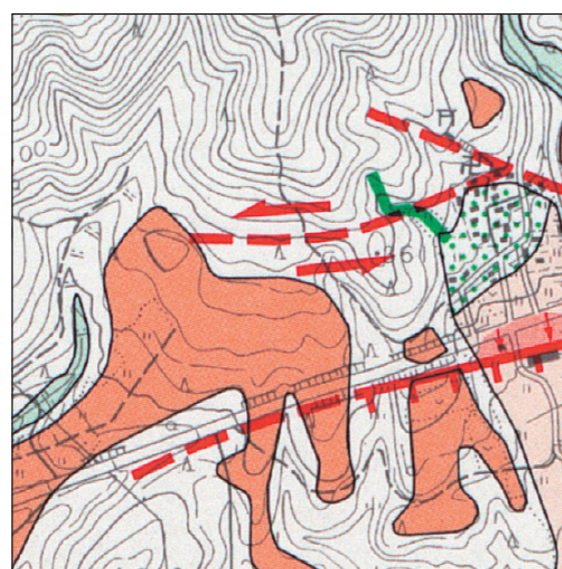
① 土地利用図



② 沿岸海域土地条件図



③ 治水地形分類図



④ 活断層図

[解説] 正解 ①（正答率 39.0%）

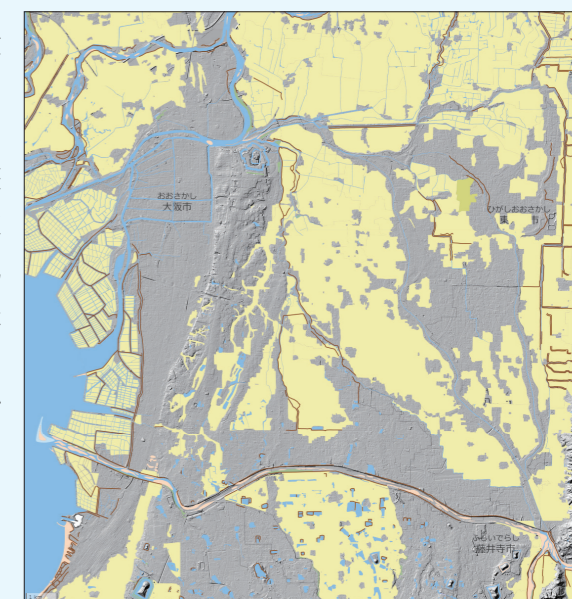
ここに掲載した主題図は、いずれも基図に地形図が使用されているものである。地図の名称にふさわしい主題図となっているか、注意して地図を眺めたい。①は、異なる地図記号が同じ配色となっているところがある。例えば、水田で着色された部分をよく見ると、畑や広葉樹林でも同じ色で塗られている。よってこの地図は、台地や低地、水部などの区分をしている土地条件図であり、これが誤りである。

②は沿岸海域土地条件図で、沿岸部（陸部および海部）の土地条件を示した主題図である。陸部だけでなく、海部の土地条件も合わせて示したことが特徴である。③の治水地形分類図は、おもに平野部を対象として、扇状地、後背湿地、微高地（自然堤防）、旧河道などの詳細な地形分類および河川工作物等を盛り込んだ地図である。堤防や等高線が分かりやすいように太く表示されている。黄色い部分は微高地（自然堤防）で、その中の太い青線の表示は旧河道を示す。④は活断層図で、大地震の際に大きな被害が予想される地域について、活断層の位置と、地形分類を表示したもので、太い線が活断層である。なお、当初は都市域のみを対象としていたために「都市圏活断層図」という名称であったが、都市域に限らず全国の活断層を対象として整備を進めていることから、2017年より「活断層図」と名称変更された。

歴史小説は国土地理院の主題図とともに

大坂の陣の「真田丸」などを描いた小説では、「大阪城を攻めるには、北側は淀川、東側はぬかるんだ低湿地に阻まれるため、上町台地上の南側から攻めるしかない・・・」とある。国土地理院が整備している土地条件図、治水地形分類図などの主題図の一つとして「明治期の低湿地」がある。地理院地図で閲覧すると、大阪の陣から約300年後の明治期でも東側は低湿地を示す黄色（主に水田）が多いことがわかる。現在、大阪湾に直接注いでいる大和川は、1704年の付け替えまでは北上して淀川と合流していた天井川で、何度も洪水を起こしていたこともこの図からイメージできる。

歴史小説は地理院地図の主題図と対比しながら読み進めると、地理と歴史の理解がより深まる。



▲「陰影起伏図」に「明治期の低湿地」を重ねて表示